

羽越水害の教訓を伝える 「えちごせきかわ大したもん蛇まつり」

1 社会資本の概要

新潟県関川村を流れる荒川は、山形県の大朝日岳に発し山間部を東西に流れ越後平野の北側を横断して日本海に注ぐ、幹川流路延長73km、流域面積1,150km²の一級河川です。豊富な水量と急峻な地形を背景に、かんがい用水や水力発電に利用され、地域の経済を支える重要な河川であるとともに、「清流荒川」として地域に愛されています。

しかし、一方で「暴れ川荒川」とも呼ばれ、治水に関する戦いの歴史を持ち、昭和42年8月28日に発生した羽越水害では、多くの犠牲者と甚大な被害が発生しました。(死者行方不明者90人、浸水面積5,875ha、被災家屋11,095戸)



昭和42年(1967年)に発生した羽越水害



一級河川荒川。羽越水害を契機に抜本的な河川整備が行われた。



大石ダム



横川ダム

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

人口約5,800人の関川村では、高齢化や過疎化により田舎が持つ連帯感が薄れつつあるという課題がありました。昭和63年に人材育成のために村が開いた「せきかわふるさと塾」の発案が、村民一体となって楽しめるまつりの創設につながりました。

村に残る「大蛇伝説」と「羽越水害」をテーマとし、竹とわらを材料に作った長さ82.8m、重さ2トンの大蛇パレードがまつりの主役です。500人もの人々が交代しながら大蛇をかつぎ村内を練り歩きます。大蛇は胴体を全集落の数54に分けて全集落が協力して制作し、村民の一体感が盛り上がります。わらを編むロープによるウロコの表現は塾生の豊職人のアイデアで、村特産のわら細工がヒントとなりました。また、民間の支援団体「グループおりの」や全国の学生ボランティア、村外から大勢の参加者がまつりを支えています。



大蛇伝説「大里峠」の紙芝居上演。
伝説は過去の大水害が関係すると言われている。



村の竹とわらを使って、全54集落で分担して大蛇を制作。



新潟県 岩船郡関川村

えちごせきかわ大したもん蛇まつり実行委員会

3 活動の成果や波及効果等

まつりを通じて始まった国際ボランティア学生協会IVUSAとの交流は13年続いており、現在はまつりのサポートだけでなく、地域活動全般で交流が生まれています。また、他地域のイベントからも声がかかり、パレードに参加していくうちに交流の輪も広がりました。

全国に知られるまつりに成長したことで、「小さな村でもやればできる」という自信が生まれました。平成29年には羽越水害から50年、まつり創設から30年の節目を迎えますが、村を誇りに思う村民の心の後押しにより、ここまで継続することができています。



大迫力の大蛇パレード。
「竹とわらで作られた世界一長い蛇」は2001年ギネス認定。



国際ボランティア学生協会との交流は
村出身学生の企画で始まった。

喜びの声



受賞者

えちごせきかわ大したもん蛇まつり
大会会長（関川村長） 平田 大六

コメント

この「まつり」は、30年前、村の若者たちによって、「村民総参加」と「継続」を合言葉に、創造されたものです。これを、さらに後世へしっかりと伝えてゆくために、この受賞は大きな「花」となりました。

活動内容

まつりの企画・運営 など

活動の経緯

昭和63年 第1回まつり開催
以後、毎年まつりを開催
平成13年 大蛇のギネス認定
平成16年 ふるさとイベント大賞
祭・イベント部門賞受賞

手づくり郷土賞
について

グランプリ2016

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

新潟県岩船郡関川村

活動主体及び連絡先

えちごせきかわ大したもん蛇まつり実行委員会
(0254-64-1476 事務局：関川村役場総務課)

対象となる社会資本

一級河川荒川、大石ダム、横川ダム
※管理者 北陸地方整備局 羽越河川国道事務所

